

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujiidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第 14号 2014年 12月

《藤井寺市民まつり》 しゅらまつり 9月14日(日)

今年はメインステージでの企画はなかったのですが、テントは例年の観光協会に加えて世界遺産登録推進室のテントの一部もお借りして内容も豊かに参加することができました。

当日は快晴、朝早くから大勢の人が準備に忙しそう。私達もあわてて支度する。「古代衣装で写真を撮ろう」「折り紙相撲でトントン勝負だ」「クイズ・藤井寺を知ろう」「びっくり手品」「楽しい紙芝居」など、色々と盛りだくさんだ。特に古代衣装は好評で、30名限定だが次から次にこられ、着付けに汗だく。そのおかげか皆様満足そうにポーズを取って、カメラに収まっておられました。他にも手品、紙芝居と子供達が目を輝かしている姿を見て“よかった・よかった”。

今年は特に子供の参加が多く、私達のブースも子供であふれ嬉しい悲鳴をあげる程でした。当会のメンバーも、楽しそうに子供達とふれあっていたのが印象的でした。

本当にどの出し物も大盛況に終わることができました。世界遺産登録に向けて少しでも役に立てたらと思えた一日でした。

ご協力を頂いた皆様ありがとうございました。(大久保)



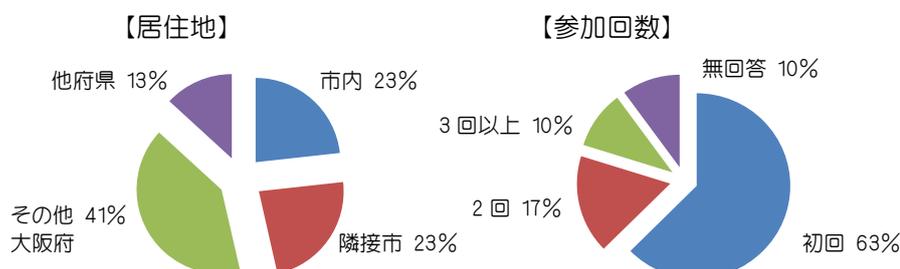
《秋季ウォーク》 王家の墓群・神社・古刹めぐり 10月26日(日)

晴天下のウォークとなりました。葛井寺をスタートし近郊の社寺の拝観と古墳を巡る約9kmとちょっと長いコースです。私は今回救護班としてウォークを横から眺める機会を得ました。

まず、印象的なこととして、説明に際して当会ガイドがそれぞれに工夫した資料を使用していたことです。ガイドに対する意気込みを改めて強く感じました。

一方、今回のような比較的長い距離のウォークの場合、途中日陰で休憩を設ける必要があること、説明ポイントや道路で各班が重ならないような工夫がもっと必要であること、また、各班ごと誘導するガイド方式はお客様のご希望に沿っているかどうか等々、これまで思い至らなかったことに気づくことができました。それでも、ゴールの道明寺天満宮では「楽しかった」「また来ます」「お世話になりました」等の多くの方のうれしい声を聞いたことはなによりのことでした。これからも安全で笑顔で楽しめるウォークになるように努めたいと思います。ご参加頂いた皆様本当にありがとうございました。(岩崎)

《秋季ウォーク》 アンケート集計 (参加者 99名)



《研修部だより》 五色塚古墳・神戸湊川神社見学 7月28日(月)

梅雨明けと共にやって来た真夏日に熱中症対策等色々と心配させられましたが、7月の土用とは思えない、爽やかな快晴の現地研修会となりました。

初めは「五色塚古墳」。丁寧に並べられた葺石や、円筒埴輪の配列の美しさに遥か昔の計算しつくされた土木技術や美的感覚に驚かされました。また、古墳頂上から海を見渡すと、目の前の淡路島はむろん、南大阪の淡海まで間近に見ることができました。さぞや古代の人々は海から見える古墳の迫力に、圧倒させられたことだろうと思われました。

「湊川神社」では、宮司の熱い解説にうなずくばかりの私でした。昨秋に見学した河内長野「観心寺」、「葛井寺」と楠公の縁をしみじみと感じました。

予定より1時間ほどオーバーした現地研修会でしたが、帰りのバスの中でも元気いっぱい。このパワーで、必ずや次回の研修会も熱いものとなること間違いなしと確信させられました。本当に感謝いっぱいの1日でした。(東)



《藤井寺南小学校 あい・うおーくを共に歩いて》 10月19日(日)

藤井寺ライオンズクラブ・当市青少年指導員会・市教育委員会の主催で、第5回のあい・うおーくが開催されました。小学校1年生から6年生、そして低学年のご家族を対象に藤井寺の歴史遺産に親しみ、学びながら校区内のウォークを楽しもうという催しです。当会も誘導ガイドのお手伝いをさせていただきました。

天高く・・・秋空の中を歩いた後のお楽しみが待つ朝、児童35名、及び保護者10名が4班に分かれてスタート。シユラホール～番所山古墳～応神天皇陵古墳～大鳥塚古墳とおしゃべりに花を添えながら歩いているうちに汗がでるほど暑くなりましたが、大鳥塚古墳に登るとその木陰が心地よくほっと一息。

子供たちからどんぐりについての質問があったり、又「この石は1600年前に敷かれた」とか、一緒にその場の事を伝えられ私達も楽しい1日でした。一方、いつも低学年に対する説明方法の難しさも感じます。

帰り道、子供たちにトン汁や焼き芋が早く食べたいと言われるとつい急ぎ足になりましたが無事に到着。みんなが美味しそうに食べる様子は微笑ましく私達もお相伴させてもらいまんぷく満腹。子供も大人も笑顔で終えることができました。

(吉田 千恵)



《ガイド部だより》

来年(2015年)は、大阪夏の陣400年にあたり、各地で様々な行事が予定されています。ガイド部では、藤井寺市周辺の合戦地などをめぐるウォークコースの検討を進めています。

藤井寺市周辺は、1615年5月6日、豊臣方が大和方面から攻めてくる徳川方を国分あたりで迎え討つために集結した早暁から、豊臣方が退却する夕刻までの約半日間の戦いの状況が良くわかる地です。また、豊臣方は、石川河原や古墳の地形を利用して布陣を行っており、夏の陣ゆかりの地を訪ねながら世界文化遺産登録を目指す古市古墳群をめぐることもできるものです。

検討しているコースの一例です。

土師ノ里駅 ～ 石川河原左岸 ～ 誉田、応神天皇陵古墳西側外堤 ～ 古室山古墳 ～ 道明寺、道明寺天満宮 ～ 道明寺駅。

試し歩きを重ねながら、参加者の皆さんに歴史ある藤井寺を楽しんでいただけるコースづくりをしたいと思います。(注：関連文献に基づいていますが、諸説あることをお含みおきください) (勝 部)

《第19回 福祉まつり》 11月9日(日)

藤井寺市社会福祉協議会の主催で福祉まつりが行われました。

雨の中出足が悪いのではと心配していましたが、10時過ぎには親子ずれで椅子も埋まり、忙しい中会員は笑顔で接していました。

ぬりえコーナーでは、男の子は遣唐使船の絵に人気があり、女の子は古代人の絵を丁寧に塗っていました。中でも、クレヨンを持ちにくそうにして画面いっぱいに殴り書きをしている2歳の男の子を赤ちゃんを抱いたお母さんが優しく見守っていたのが印象的でした。紙芝居も会員の熱演により、「中野千代さんの話ですか？」と身を乗り出しておられた方など何時もの年より大人の立ち見が多かったように思います。

私たちのブースには、ぬりえ160人紙芝居50人の参加があり大盛況でした。来年は福祉まつりがどうなるのかわかりませんが、ぬりえも紙芝居も定着してきたように思います。(増原)



《大坂夏の陣 道明寺合戦記念碑》

平成26年11月18日建立

道明寺合戦より400年を記念し近鉄道明寺駅前に地元、道明寺まちづくり協議会により碑が建てられ、除幕式が行われた。

立派な北木石に刻まれた碑文筆は道明寺山主、六條照瑞氏、副碑文は道明寺天満宮宮司、南坊城光興氏の撰。

来賓には後藤氏、真田氏、片倉氏の末裔三名も出席され、初顔合わせながら和睦の握手を感慨深げに交わされた。除幕式は400年前の大坂の陣の端緒を開いた木津川口の戦いの前日にあたる日に執り行われた。

(植木)



《古墳時代体験ツアー 勾玉作り》 近つ飛鳥博物館 8月21日(木)

藤井寺市世界遺産登録推進室が主催した、勾玉作り体験のお手伝いとして当会員5名が参加しました。

勾玉の材料は柔らかく加工しやすい滑石を使用。①石切りナイフで四隅を裁断する。②目の粗いサンドペーパーで磨いて形を整える。③チェックを受けいい形にする。④水のなかで石の粉を落としながら細かいサンドペーパーで石を磨く。⑤油をぬって紐を通して完成という工程です。とても細かい作業で最新の注意を払って削るなど大変でしたが、昔のひとの苦勞を考えながら楽しいひと時を過ごす事が出来ました。(大西)



《林地区の夏まつり》 7月26日(土)

林地区の夏祭りは伴林氏神社の境内で毎年7月下旬に開催されています。当会は今まで「とべとべ座」の紙芝居のコーナーでお手伝いと言う形で有志が参加していました。今年から当会がコーナーを任されることになりました。当日は予定時間より早く集合し「手遊び」等のリハーサルを行いました。賑やかな練習風景に早くもメンバーが盛り上がり、いつのまにか椅子席もお客さんでいっぱいになりました。

「すいかの名産地」の手遊びや、「大蛇ときこり」の紙芝居のあとの「ピョンピョン蛙(折り紙)」のお土産は子ども達に大好評でした。又、神社にまつわる「うっかりかみなり」の紙芝居の後、かみなり夫婦登場で思わず歓声があがり、恒例の「雷(鬼)のパンツ」ではお客さんも一緒になって楽しんでいただきました。予定の時間もあっという間に過ぎてしまうほど大盛況でした。

林地区は毎年2回のウォークで当会をご利用いただいております。これからもこの夏祭りがウォークと同じように地区の皆さんと楽しい交流の場になることを願っています。(芳尾)



国府遺跡物語その三

一 又状研歯人骨のこと一

块状耳飾は、国府遺跡の発掘で 6 対 12 個が出土して、他に 2 個が採集されていますので、合計 14 個が知られています。一遺跡からの出土数では全国的に見ても群を抜いています。块状耳飾は縄紋前期の女性専用の装身具と考えられていたのですが、国府遺跡ではこれを装着した男性人骨がみつかっていて注目されています。今回は、縄紋晩期人骨に施された抜歯についてレポートします。縄紋晩期の西日本では抜歯が社会制度として定着していました。抜歯とは健康な歯をあるきまりにしたがついて抜いていく習俗です。最初は 15 歳前後の成人式で男女とも上顎の両側犬歯を抜きます。次は結婚式で下顎の両犬歯あるいは切歯(前歯)を抜きます。その後も人生の節目に歯を抜く儀式を重ねていきます。私は抜歯には人口を調節しようとする隠れた目的があったのではないかと考えています。また、抜歯には又状研歯という特殊な加工例も知られています。上顎 4 本の切歯にフォーク状に刻みを入れるのです。笑うときぞ恐ろしい顔になったことでしょう。国府遺跡では又状研歯を施した 3 体の人骨が出土していて、西限事例として知られています。それにしても何を目的としてこんなことをしたのでしょうか。村人のうち一人が選ばれて又状研歯を施したようですが、選ばれた人の本音はどうだったんでしょうね。



藤井寺市教育委員会 天野末喜

(写真キャプション)

国府遺跡出土の又状研歯人骨[東京大学総合研究資料館/小学館]

古墳のある風景 5 エッセイスト 川上 恵

シルクロードの香り

安閑天皇陵にはシルクロードの香りが漂う。正倉院御物に納められているガラス碗と瓜二つものが、この古墳から出土したのだ。

ササン朝ペルシャ製の厚手の円形切子碗は、天山山脈・敦煌・長安、そして東シナ海と、絹の道を通して奈良へ。そして、そこからまた少しだけ旅をして、河内の地に落ち着いた。ガラス碗はなんと過酷な長い旅を続けてきたのだろう。距離的にも時間的にも。

「はるばる遠いところまで、よう割れんと来たね。河内までよう来てくれたね」

見たこともないのに、撫でたいほどの愛しい気持ちが沸きあがる。

西域の匂いを纏ったガラス碗が出土したというだけで、なんだか安閑天皇がエキゾチックな人物に思えてくる。

戦国時代には畠山氏らの本丸ともなった古墳だが、そんなことは知った事じゃないとばかりに、後方にある後の春日陵と仲良く寄り添い、在りし日を語っている。

東京国立博物館に収められているという実物に、一度お目にかかりたいものだ。



安閑天皇陵古墳